



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)クリーンリバーファインズ月寒東2条9丁目 新築工事	階数	10階
建設地	札幌市豊平区月寒東2条9丁目579-1の内	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員	297 人
建物用途	集合住宅	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2021年11月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	4,138 m ²	評価の実施日	2019年11月20日
建築面積	1,335 m ²	作成者	花里
延床面積	9,617 m ²	確認日	2019年11月25日
		確認者	石川

「配慮シート」に
外観パースを張り付けて下さい。

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 1.7 ★★★★★☆ A</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>① 参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>② 建築物の取組み</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>③ 上記+②以外のオンサイト手法</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>④ 上記+オフサイト手法</td> <td>76%</td> </tr> </table> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	① 参照値	100%	② 建築物の取組み	76%	③ 上記+②以外のオンサイト手法	76%	④ 上記+オフサイト手法	76%	<p>Q2 サービス性能: 5 Q1 室内環境: 3.5 Q3 室外環境(敷地内): 2.7 LR1 エネルギー: 4.4 LR2 資源・マテリアル: 3.0 LR3 敷地外環境: 3.3</p>
① 参照値	100%									
② 建築物の取組み	76%									
③ 上記+②以外のオンサイト手法	76%									
④ 上記+オフサイト手法	76%									
		<p>2-4 一次エネルギー消費量の評価</p> <p>建物全体の[BEI][BEIm] = 0.83</p>								

2-5 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.3</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.5</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.7</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.6</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.0</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」を新基準(H28基準)で取得し、「低炭素建築物新築等計画認定」を取得するなど、外皮性能の向上・省エネ効果の高い設備機器の選定などにより一次エネルギーの抑制し省エネルギー対策を行っている。 		
<p>B 省資源等</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別を比較的容易にしている。 ODP=0、GWP(100年値)=1の断熱材を使用している。 地球温暖化対策の取組みによりLCCO₂排出率が76%となっている。 	<p>C 緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> 基調となる樹種に耐陰性・耐寒性のある常緑針葉樹を用い、冬の緑量確保に配慮している。 道路境界に植栽を多く設け、沿道が緑の潤いに満ちた空間となるよう配慮した。 	<p>A 省エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 低炭素建築物新築等計画認定を取得し、日本住宅性能表示基準の一次エネルギー消費量等級5を満たす程、省エネルギー対策を充実させている。 効率の優れた潜熱回収型給湯設備の使用など、省エネルギー効果が期待できる設備を採用している。 <p>D 雪処理</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内車路・通路をロードヒーティングとし、冬季間の除排雪作業の軽減に努めています。

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし
LEED認証	なし		
上記以外の認証・評価制度の利用			

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

(仮称)クリーンリバーファイブス月寒東2条9丁目 新築工事

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境				0.40	-			3.5
1 音環境			2.0	0.15	2.3	1.00		2.2
1.1 室内騒音レベル			1.0	0.50	1.0	0.50		
1.2 遮音			3.0	0.50	3.6	0.50		
1 開口部遮音性能		AW+PWでT-2以上相当の建具を使用している。	3.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20		
1.3 吸音				-	-	-		
2 温熱環境			1.3	0.35	4.4	1.00		3.9
2.1 室温制御			1.7	0.50	5.0	0.71		
1 室温			1.0	0.63	-	-		
2 外皮性能	省エネ	日本住宅性能評定基準の断熱等性能等級4を超える水準の断熱性能を満たしている。	3.0	0.38	5.0	1.00		
3 ゾーン別制御性				-	-	-		
2.2 湿度制御			1.0	0.20	3.0	0.29		
2.3 空調方式			1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境			2.5	0.25	3.8	1.00		3.6
3.1 昼光利用			3.6	0.30	4.6	0.50		
1 昼光率		開口部を大きくし、昼光を確保している。	4.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口		代表タイプが南面、東面に窓がある。		-	5.0	0.30		
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策			2.0	0.30	3.0	0.50		
1 昼光制御	省エネ		2.0	1.00	3.0	1.00		
2 映り込み対策				-	-	-		
3.3 照度			1.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御			3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境			3.6	0.25	3.8	1.00		3.8
4.1 発生源対策			4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		床・壁・天井にF☆☆☆☆の建材を使用している。	4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気			3.0	0.40	3.6	0.38		
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		開口部を大きくして、開閉可能な窓を十分確保している。		-	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				-	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-		

Q2 サービス性能			3.1	0.30	4.4	1.00	3.5
1 機能性			3.1	0.40	4.4	1.00	4.2
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応	各住戸に1 Gbitの光ファイバー回線を整備している。		-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	3.5	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	天井高を高くし、開放感を持たせている。		-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理			3.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	清掃用資材を保管するスペースがあり、洗い場も設置している。	4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			3.0	0.30		-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.5	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数	日本住宅性能評定基準の劣化対策等級3を満たしている。	5.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	期待耐用年数が長い内装材を選定している。	4.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	期待耐用年数が長い管材を選定している。	4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			2.6	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	3.2	0.50	
1 階高のゆとり		階高2910mm以上。		-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出	緑化		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	日本住宅性能評定基準の一次エネルギー消費量等級5を満たしている。	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.83	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型器具を使用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別が比較的容易である。	4.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤	省資源	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒	省資源	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		省資源	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1	大気汚染防止	省資源	3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄処理	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 蓄処理	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.7	BEEランク	A
建物名称	(仮称)クリーンリバーフィネス月寒東2条9丁目 新築工事				
建物用途	集合住宅				
延床面積	9,616.8 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★★	
		<p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下</p> <p>★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下</p> <p>★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下</p> <p>★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下</p> <p>★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
A 省エネルギー (最高点 23.5 最低点 7.4)				合計	19.4点 /23.5点
Q1 温熱環境	スコア	0.8 /1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.0 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)				合計	15.1点 /23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.7 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.7 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.7 /1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.9 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.7 /4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)				合計	8.3点 /15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.8 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計	2.0点 /3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数